

麻績の里 舞台桜物語



麻績の里 舞台桜

「半八重紅彼岸枝垂桜」胸高周囲約4m 樹高約12m
 平成17年 公募により「麻績の里 舞台桜」と命名される
 平成18年 財団法人「日本花の会」により、新品種と判定・登録される
 平成23年 飯田市天然記念物に指定される
 エドヒガンの突然変異種で、花弁が5から10枚の花がランダムに咲く、全国でもここだけの珍しい桜

これほど知られ愛されるようになった舞台桜ですが、そこにはどのような歴史があつたのでしょうか。地域の人々が支え育んできた名桜の歴史とこれからを特集します。

座光寺の花が「しだれ桜」に決まりました。これには「麻績の里 舞台桜」が大きく関係していると考えられます。今年こそ新型コロナウイルス禍で花見客は少数でしたが、例年は開花と共に多くの人が舞台桜を訪れます。今や南信州を代表する一本桜として、広く知られるようになりました。地域でも桜まつりや子ども桜ガイドの活躍などにより、座光寺のシンボリック的存在となつています。



桜まつり

信州飯田 麻績の里 座光寺便

— 2020.6 —
 ZAKOJIBIN
 No.33

麻績の里 座光寺便 33号

令和2年6月発行 ■麻績の里ふるさと応援倶楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-22-1401



麻績の里 石塚桜(宮の前)



最見塚の桜(欠野)



上野のしだれ桜(万才)



北市場のいちご桜(北市場)

麻績の里 座光寺の花 「しだれ桜」に決まる



「住民が親しみと誇りをもてるシンボルとなる座光寺の花」が制定されました。

昨年末から今年にかけて、住民から公募。寄せられた175件の半数が「桜」(しだれ桜、舞台桜を含む)で、座光寺らしさを勘案し「しだれ桜」に決定しました。

今後の事業として自治委員会社会部では「地域の象徴として、しだれ桜をモチーフにいろいろなものを利用してほしい」といいます。さっそく着手したのが「桜マップづくり」。座光寺内の名だたる桜を調べ、気軽に訪ね歩ける地図にまとめ上げる計画です。また、地域への浸透を図ろうと、周知用のクリアファイルを全戸配布しました。さらに環境を意識したエコバッグ等も現在構想中です。地域づくりに「座光寺の花」という大きな戦略が加わりました。今後の活用が楽しみです。



座光寺小学校の桜(座光寺小学校)

自治委員会社会部

飯田には城下町の歴史を感じさせる美しい一本桜が数多く散在しています。中でもわが座光寺の「麻績の里 舞台桜」は、その筆頭といえる名桜です。舞台桜がこれほどまで知られるようになったのは、守り育ててきた人々がいたから。そのひとりで、30年余にわたり舞台桜の手入れを続けてきた今村進さん(恒川)に、「自身と桜の関わりについて原稿を寄せていただきました。」

舞台桜との 出会いと関わり

今村進「恒川」

記憶の中の「舞台桜」

私とこの桜との出会いは昭和34年。座光寺小学校へ入学した時に桜の前で記念写真を撮ってもらったような気がしますが、その後は樹に登って遊んだりとか特別に慣れ親しんだ記憶はありません。それでも、校門脇に立ち堂々と咲き誇る姿は、私に限らず卒業生の記憶に留まっていることだと思います。

しかし、小学校が昭和59年に北本城に移転した後は、ほとんど忘れ去られたような存在であったと推測されます。

再び桜との出会い

平成元年、市役所商業観光課で中心市街地の活性化に取り組んでいた私は、丘の上の魅力を発信するため、丘の上に多く見られる一本桜を写真進んでしまいそうな太い枝を除去したりと、素人ながら多少外科的(?)な作業にも挑戦してきました。

「舞台桜」として名を馳せる

最初は一人で勝手に始めた「お世話」ですが、市職員座光寺会のほか、自治会、中部電力、日本花の会の皆さんもそれぞれの活動の中で関わっていただき、数年経つうちに樹勢が回復し、いつしか春になると多くの人の目を惹きつけてくれるようになりました。

また、森田さんのご尽力で「半八重紅枝垂れ」という他に例のない固有の品種であることが認定され、平成17年には公募により名称が「麻績の里 舞台桜」に決定。平成23年には飯田市の天然記念物に指定されました。

今後も「お世話」の継続を

現在の舞台桜は、平成元年に比べれば樹勢も改善し、飯田下伊那で最も人気のある桜の本に数えられるようになりました。とはいえ次第に本数が増す支柱が示すように、人の手を借りなければ樹勢や樹形を保つことができない老木であることも事実です。

これからも舞台桜が樹齢(とし)相応に健康で、天寿を全うしてもらえよう、微力ながらも「お世話」を続けていきたいと考えています。



平成元年当時の旧座光寺小学校の枝垂れ桜(現:麻績の里舞台桜)。樹形は現在の姿と異なり小ぶりな印象。背後は旧座光寺小学校

い将来枯れてしまうのではないかと心配になりました。そこで誰に了解を得るでもなく勝手に「お世話」に取りかかりました。とはいえ桜の保護に関し持ち合わせた知識もなく、とりあえず朽ちていた柵の撤去や周辺の除草など、できることから少しずつ始めました。

「お世話」の輪が広がる

そのうちに森田さんから「桜が健康で生長するためには、適切に枝を切ったり手をかけてやる必要がある」と教えていただき、枯れ枝や徒長枝の除去などを始めました。

また市職員座光寺会にも声をかけ、平成3年から毎年12月上旬の土曜日、舞台桜と校庭の周りのソメイヨシノを対象に、恒例の桜作業が始まりました。これは現在に至るまでほぼ毎年行っています(現在は麻績の里振興委員で校舎周りの樹木管理を担当されている山庭造園の山田さんと連絡を取りながら、枯れ枝や徒長枝、ひこばえの除去、施肥などの作業をしています)。

専門的な作業にも挑戦

さらに森田さんや樹木医さんの助言を参考に、平成5年には泥状になった木屑が溜まった樹幹の空(うろ)の中身を汲み出し、乾燥させた後に発泡ウレタンを充填したり、樹幹の南側のコルク化した部分を除去し、腐朽防止剤でコーティングしたり、折れたまままで放置すれば腐朽が樹幹まで



座光寺小学校の子どもたちが桜ガイドを務める

麻績の里振興委員会の桜守活動

麻績の里振興委員会(おみしん)は平成11年の発足以来、当地域の貴重な自然、多くの史跡・文化財の保存整備・有効活用を進め、麻績の里の活性化に取り組んでいます。

現在会員(53名)は4つの班に分かれ活動しています。活動の概要は以下の通りです。

- 1班 元善光寺を含めた門前町の一体的な振興
- 2班 南本城(県の史跡指定)を核にした城址の公園整備
- 3班 文化施設の有効活用と舞台桜(市の天然記念物)の保全および環境整備
- 4班 竹宵を軸とした地域と南信州の一体的な振興

舞台桜・石塚桜をはじめ、周辺の樹木等の環境整備事業は3班が当たっています。舞台桜の支柱・石塚桜遊歩道の点検整備(通年)、アメシロなどの対策として最適な時期の消毒、桜周辺の除草・桜枯れ枝撤去・周辺整備、桜全般への施肥などを行っています。

今年は残念ながら「麻績の里桜まつり」は中止になってしまいましたが、地域の宝である桜をこれからも多くの方に楽しんでいただけるよう守っていきたくと話しています。

